

科目名	病態解析学								
英文科目名	Clinical Pathology Exercises								
担当教員	川良徳弘								
授業形態	講義								
学年	4年	クラス	1	開講学期	前期	単位区分	必	単位数	2
ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての倫理観と他者に対する思いやりをもち、責任をもって行動できる。 ・臨床検査技師として必要とされる基本的な知識・技術を修得し、活用できる。 ・患者や他の専門職と適切にコミュニケーションする能力をもち、チームの一員として協調して行動できる。 ・自らの専門分野での課題を見出し、解決に向けて行動できる。 								
授業の目的・到達目標	<p>【授業目的】 疾病の病態、経過、治療を知ることは検査の意味を把握し、検査結果を解釈する力につながる。目的意識をもつことで検査の質は向上し、生きた検査を提供できるようになる。学生は本科目で代表的疾患の中でどのように検査が用いられるかを学び、症例にあてはめて検査結果を解釈する力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高血圧の経過を説明できる。 2. 腎・泌尿器疾患の経過を説明できる。 3. 消化器疾患の経過を説明できる。 4. 血液疾患の経過を説明できる。 5. 代謝疾患の経過を説明できる。 6. 電解質・酸塩基平衡障害の経過を説明できる。 7. 救急疾患の経過を説明できる。 8. 悪性腫瘍の経過を説明できる。 								
授業概要									
学習演題	<p>【予習】 各回2時間程度</p> <p>2学年で履修した「臨床医学総論Ⅰ・Ⅱ」で用いた教科書・参考書・プリントの該当分野を通読し、以下の症状・症候を呈する疾患についてまとめておく。</p> <p>第1回 高血圧 第2回 蛋白尿 第3回 血尿 第4回 消化管出血 第5回 下痢症 第6回 腹痛 第7回 黄疸 第8回 貧血 第9回 出血傾向 第10回 脂質異常 第11回 糖尿 第12回 酸塩基平衡障害 第13回 電解質異常 第14回 パニック値 第15回 体重減少</p> <p>【復習】 各回2時間程度</p> <p>症状・症候ごとに関連する疾患について復習し、与えられた課題に取り組む。</p> <p>第1回 高血圧を呈した症例 第2回 蛋白尿を呈した症例 第3回 血尿を呈した症例 第4回 消化管出血を呈した症例 第5回 下痢症を呈した症例 第6回 腹痛を呈した症例 第7回 黄疸を呈した症例 第8回 貧血を呈した症例</p>								

	<p>第9回 出血傾向を呈した症例</p> <p>第10回 脂質異常を呈した症例</p> <p>第11回 糖尿を呈した症例</p> <p>第12回 酸塩基平衡障害を呈した症例</p> <p>第13回 電解質異常を呈した症例</p> <p>第14回 パニック値を呈した症例</p> <p>第15回 体重減少を呈した症例</p>
授業方法	<p>代表的疾患に関連する検査とその結果の用い方を解説する。</p> <p>学生は、臨床症例（配布資料）の経過・検査データから患者の病態を推論する。</p> <p>学生同士の対話を軸にして授業を進める。</p>
成績評価の基準	筆記試験（100%）
教科書	「最新臨床検査学講座 病態学／臨床検査医学総論 第2版」医歯薬出版／奈良信雄 他編／2021年3月／ISBN978-4-263-22382-6
参考書	
実務経験のある教員による授業	○
実務経験の内容	<p>東京医科歯科大学医学部附属病院医員（研修医）として、1984年6月～1985年6月勤務。</p> <p>青梅市立総合病院医師（内科）として、1985年7月～1987年6月勤務。</p> <p>東京医科歯科大学医学部附属病院医員として、1987年7月～1988年12月勤務。</p> <p>横浜赤十字病院医師（循環器科）として、1989年1月～1990年12月勤務。</p> <p>東京医科歯科大学医学部附属病院医師として、1991年1月～2012年3月まで勤務。</p>
実務経験の当該科目への活用	医療機関で医師として勤務して得られた実務経験をもとに、臨床病態学に関する講義・演習を行う。